



Kazé



ルヴァン便り No.13
2021.7

西村伊作の理想の学校 文化学院 100年前のパイオニアたち

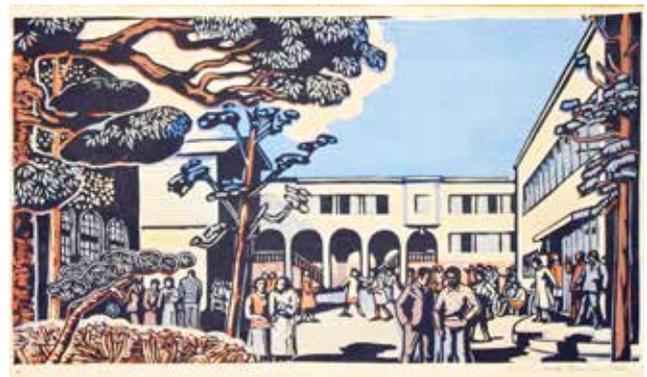
大正時代、生活文化研究者として注目されていた西村伊作は、幼いころから自分の理想の学校を作りたいことを思い描いていました。「教育の本旨は芸術教育であらねばならない」「少女たちの自然で自由な心を伸びやかに学びに向かわせたい」という伊作の考えに共鳴した画家の石井柏亭、歌人の与謝野晶子・寛、国語教師の河崎なつは、理想の教育を行うための学校の創立を共に考えます。当時の女学校の教育内容は程度を男子よりも落としたものでしたが、彼らは芸術教育により女子の資質と能力は男子と同等もしくはそれ以上に開花すると信じ、1921年春に文化学院を開校します。

文化学院の芸術教育の基底には「個性の尊重」「ジェンダー平等」「グローバルエデュケーション」等の考え方があり、100年前においては革新的な学校の出現であったといえます。当時第一線で活動する学者や文化人、赤城泰舒、山田耕筰、高浜虚子、有島武郎・生馬兄弟、佐藤春夫等の芸術家たちも講師となり、彼らの知識と思想と美意識を少女たちに惜しみなく分け与えました。

大正自由教育の追い風を受けながら立ち上がった文化学院の高踏的人間教育の創立期から成熟過程と、芸術教育のために愛と力を注いだ講師たちの作品を本企画展でご紹介します。



1921年 開校時の授業風景



赤城泰舒作 文化学院校舎



1930年頃 校舎と校庭



1931年 創立10周年記念 教員たち



1931年 創立10周年記念イベント

西村伊作旅行日記 (12)

ボストン～ナイアガラの滝へ

西村伊作は 1909(明治 42)年 3 月 27 日、25 歳の時、横浜からドイツの商船で欧州を經由して米国に向けて旅立った。今回の旅行日記(12)では、米国に入国後ボストンで、ウインチェスターの高校に留学中の末弟七分と久々に会い、数日間をこの地で過ごした際のことや、さらに、ボストンを発った後、西海岸へ向かう途中、ナイアガラの滝を見物したことまでが記されている。

伊作はこの日記の中に、ボストン郊外のハーバード大学を訪問したことを記しているが、ロンドン滞在中でもオックスフォード大学を訪ねていた。彼は 1921(大正 10)年に文化学院を創立するが、この日記によりこの頃既に教育機関に非常に興味を持っていたことが分かる。

なお、本文はできる限り日記そのままを紹介することに努めたが、文中には句読点はなく、読みづらいため筆者の判断で新たに書き加えた。○は判読困難な文字である。

● 6/10

朝 11 時半ボストン着。七分がむかへに来て居つて逢つた。それよりホテルへ行き部屋を○所して見まわり、○と見物した。雨がふつて気もちが甚わるい。

● 6/11

朝おそく迄ねて居てぐずぐずして居た。ひる頃、七分が来て又二人でぶらぶらした。七分はやはり口がよくまはる。よいかげんな事を尤もらしく云う。米国を大変有難がつて居る。

● 6/12

朝ウインチェスターへ行つて見た。七分の友人に逢い、それ○○一しよに又ボストンへ行きやどでぐずぐずして居り、夕方又ウインチェスターへ戻り、ミセスシムと云ふ家に来てここに客となつた。質素な一家である。

● 6/13

ウインチェスターの近郊を散歩した。大きな池がある。水道の貯水場である。丁度湖水の様で、まはりは木が茂つて居る。此辺の木は虫が付いて葉を食ふ。数本の幹にやにをぬり虫の上へ上らぬ様にし葉には白い石灰水の様なものをポンプでかけて居る。無数にある山の木に一々やにをぬり藁をかけてある。大した○の入る事であろう。又一個人が大きな山山と云ふても平たい地へ木の植わつた山をもつて居て、それを公園としベンチをす江て公衆の為に公開したのもある。ボストン近郊マサチユセツ州一体を公園となすつもりである。そしてマサチユセツ州の人は皆公園に生活して居る事となる。湖水の小さいのが多く有る所で、至る所水がある。やはらかい○の草の中に野苺が咲いて居てきれいである。電車が縦横に通つてある。

● 6/14

ハーバード大学を見に行つた。学生の案内者に案内してもらつた。そして大学の食堂でひるめしをたべた。それは先づ切符を買つて食ふ品の代丈けの切符をきりとり、注文の食品を紙に書いて切符と一しよに高くさし上げて居ると、学生の給仕がそれを取つて注文の品をもつて来てくれる様になつて居る。其價は実費でやすい。大学生の給仕はよほど面白い。但しほんとうの大学の食堂はメモリアルホールと云ふ中であつて千人一度にたべられる様になつて居るのである。

大学の博物館内に有名な硝子製の花（独逸人の作る）や草木の標本がある。よほど〇く出来て居る。教室やミュージアムを見てしまつてからボストンへ行く。そこからリンと云う所へ行つて海岸で遊び、又ボストンへかへり汽車でウインチェスターへかへつた。

● 6/15

〇はウインチェスターに居つた。学校を見た。七分の行て居た学校の先生と話した。

Excuse me Mr Long

● 6/16

汽車の切符を買た（ロスアンゼルス迄）。七分の友人とばんめしを三人でたべた。

● 6/17

七分が色々の所へ引はつて行つた。Mrs Jewett と云ふ所へ行つて蓄音機を〇長い事やつた。

● 6/18

七荷物をまとめてボストンへ送り、午後から七分と二人でボストンへ行き夕食を二人でたべ、午後七時の汽車でボストンを出発した。七分は又これから一人で勉強せねばならんで少しさみし相であつた。初めから一人なら淋しくないが、二人居て分かれるのは淋しく感ずるだろう。プルマンの寝台車へ乗つた。

・七分：スチープン。大石七分(1890～1959)。伊作は三人兄弟で七分は末弟。七分は十六才の時からボストン郊外のウインチェスターの高校へ留学していた。（「我に益あり」）

・ウインチェスター：マサチューセッツ州ボストンの中心部から北西約8 kmに位置する。（「世界地名大事典」朝倉書店）

・リン：ボストン中心部の北東約16 km、マサチューセッツ湾に面する町。現在では工業都市、郊外住宅地、またリゾート地でもある。（同上書）



● 6/19

翌朝目が覚めるともう直ちにカナダ領へ入つた。あまり開けて居ない所だ。米国よりよほど田舎びて居る。モントリオルでのりかへて、一日汽車に乗りナイアガラ滝へ夕方七時頃着いた。めしを食べて直ちにたきの所まで行つて見た。ナイアガラの夜の町は電気で甚きれいであつた。

● 6/20

瀧を見に行つた。瀧の間の島へ行つたり上流の島へも行つた。立派なコンクリートの橋がかかつて島は公園になつて居る。世界第一の大瀧〇公園の中にとりこにせられて居る。瀧の下へ汽船が行く。見物人は皆防水衣を着て行く。瀧の下へ栈橋がかかつてある。そこへも行ける様になつて居る。皆金をとるさい工である。瀧の下流に〇橋がかかつてある。高い橋だ。ここを渡るにも金をとられる。橋には〇国の官吏が見張つて居る。午後二時の汽車でシカゴへ向かふ。

（西山修司）

2021年度 ルヴァン美術館のご案内

6月6日(日)～11月3日(水) 10:00～17:00
水曜日休館(8月4日～9月15日は無休)

ローズフェスティバル

午前 10:00～17:00

6月19日(土)～7月4日(日)

ルヴァン美術館の庭のバラが見ごろです。期間中カフェのご利用は100円引きになります。

サマーコンサート

- ①山口佳子ソプラノコンサート 8月1日(日)
出演者：山口佳子
- ②近藤和花ピアノコンサート(第13回) 8月9日(月・祝)
演奏者：近藤和花
- ③サパトス ボサノバコンサート(第18回) 8月14日(土)
演奏者：木村純・三四郎
- ④寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート(第4回) 8月21日(土)
演奏者：渡邊規久雄 寺田悦子(ピアノ)
- ⑤J.C.アコースティックコンサート 9月4日(土)
演奏者：上田浩司(A.Gt/E.Gt) 染谷匡紀(A.Gt) 菅野吉也(Perc)
- ⑥戸室玄ピアノコンサート 9月11日(土)
演奏者：戸室玄

入場料：

- ①②③⑤⑥ 一般:3,000円 中学生以下:1,500円 未就学児:無料 要予約
- ④ 一般:4,000円 中学生以下:2,000円 未就学児:無料 要予約

時間：

- ①②③④ 開場：16：00 開演：16：30
- ⑤ 開場：16：30 開演：17：00
- ⑥ 開場：15：30 開演：16：00

※コンサート開催日のみ、美術館は15:00に閉館致します。

ギャラリートーク

- 「人間教育の草わけ」 立花利根(元文化学院副校長) 大坪 寛(ライター・元文化学院講師) 8月28日(土)
14：00～15：30 参加料：美術館入館料で参加いただけます。

ワークショップ情報

ウィンターオーナメント作り

- 午前 10:30～12:00 / 午後 14:00～15:30 講師：大谷香(色彩の工房主宰) 10月9日(土)
- 内容：スワッグをつくらう 参加料：3,000円(材料費含)
- モミの枝や木の実、ドライフラワーやフルーツ、ルヴァンの庭でとれる素材を使ってオーナメントをつくります。
- ちょっと工夫を加えれば同じオーナメントをハロウィンからお正月まで飾れます。

秋のアートフェスティバル

- 10：00～17：00 入館料無料 10月10日(日)
- スケッチ大会開催 ルヴァンのお庭でスケッチ 中学生以下にはスケッチブックとクレヨンをプレゼント
- 完成した作品は美術館最終日の11月3日までカフェテラスに展示します。

※コンサート・イベント・ワークショップは開催予定が変更になる場合がございます。ご了承下さい。

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Vent は、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館：〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢長倉 957-10 Tel.:0267-46-1911 Fax.:0267-46-1910
東京事務所：〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-14 Tel. & Fax.:03-3401-8896 <https://www.levent.or.jp>